



七十人

バレーリ・V・  
ゴードン長老

# すばらしい教え



「わたし〔は〕天のまどを  
開いて、あふるるめぐみを、あなたがたに  
注ぐ……。」(マラキ3:10)

わたしはグアテマラで育ちました。家族はスポーツチー  
ムのユニフォームを作る工場を持っていました。  
お父さんは、わたしたち子供たちに、一生けんめい働く  
人になってほしいと思っていました。わたしたちは工場  
でお父さんを手伝いました。わたしは小さいとき、よく問題  
を起こしました。いつも、何かをこわしてしまうのです。でも、  
大きくなると、お父さんはわたしに編み機の整備をさせ  
てくれました。

お父さんはわたしたちに、働いた分のお金をはらってくれ  
ました。そして、「そのお金をどう使うのかな?」と聞くので  
した。わたしは正しい答えを知っていたので、こう答えまし  
た。「什分の一をはらって、伝道のために貯金するよ。」

わたしが13才のとき、工場はとてまたくさんのお金を  
失ってしまいました。たくさんのミシンを手放さなければなら  
なくなりました。前は200人が働いていたのに、5人足  
らずにへってしまいました。その人たちは、わたしの家の倉  
庫で働くことになりました。

わたしは、いつも什分の一をおさめてきましたが、それが  
どれほど大切か、ほんとうには分かっていませんでした。そ

して、すばらしい教えを学んだのです。  
ある土曜日の朝、両親がささやき声で話し合っ  
ているのが聞こえました。お父さんがお母さんに、什分  
の一をおさめるか、食べ物を買うか、どちらかの分のお金し  
かないと言いました。両方の分のお金はなかったのです。  
わたしは心配になりました。お父さんはどうするのだろうと  
思いました。

日曜日になり、お父さんが支部会長にふうとうをわたす  
のを見ました。お父さんは什分の一をおさめる方を選んだ  
のです。お父さんがそうしてくれてわたしはうれしかったで  
す。でも、心配にもなりました。家族は何を食べればよい  
のでしょうか。

翌朝、何人かの人が家のドアをノックしました。ユニ  
フォームがすぐに必要だと言うのです。普通は、注文を受  
けた分が出来上がってからお金をはらってもらうのですが、  
その人たちは、ユニフォームが出来上がる前なのに、その  
日にははらってくれたのです!

その週末、わたしは一生心に残るすばらしい教えを学び  
ました。什分の一によって、わたしたちは信仰を強め、天の  
お父様への感謝をしめすことができます。什分の一は祝福  
です。■

イラスト: アナスタシア